

新居浜市議会 市民との意見交換会 議会フォーラム 2022

開催報告書



令和4年11月24日（木）・25日（金）

新居浜市議会

目 次

	ページ
1 市民との意見交換会の概要	1・2
<記録>	
11月24日 企画教育委員会	3～14
11月24日 経済建設委員会	15～20
11月25日 市民福祉委員会	21～30
2 来場者アンケート調査	
(1) 11月24日	31～34
(2) 11月25日	35～38
3 資料(会場スクリーン)	39～41

1 新居浜市議会市民との意見交換会「議会フォーラム 2022」の概要

①開催目的

市民との意見交換を通して市民の多様な意見を把握し、政策形成に反映させるため、市民（団体）との意見交換会を開催する。

②開催結果 ※各常任委員会を2日に分けて開催

日時 令和4年11月24日（木）19時～21時10分

第1部 企画教育委員会

- ・参加団体 新居浜南高等学校、新居浜工業高等学校
- ・テーマ「選挙権年齢の引下げと投票率アップへの取組について」

第2部 経済建設委員会

- ・参加団体 銅夢キッチン運営事業者、テナント事業者、納入事業者、一般消費者
- ・テーマ「公共施設の民間譲渡について考える」

令和4年11月25日（金）19時～20時20分

市民福祉委員会

- ・参加団体 新居浜市連合自治会、あかがね環境事業協同組合
- ・テーマ「ごみ有料化後の課題と取組について」

会場 あかがねミュージアム 多目的ホール

コーディネーター 愛媛大学社会連携推進機構：前田 眞 教授

グラフィックレコーダー 岩下紗矢香

③来場者数 11月24日（木）… 67人

11月25日（金）… 51人

議会フォーラム2022

3つの常任委員会と関係団体との意見交換会

市民の皆さんのご意見を
市政に反映させるため
各種団体と3つのテーマについて
意見交換会を行います
皆さんも一緒に考えてみませんか？



—参加費無料・事前申込不要—

コーディネーター：愛媛大学社会連携推進機構 前田 眞 教授

会場：あかがねミュージアム多目的ホール

新居浜市議会
市民との意見交換会

企画教育・経済建設委員会

日時 **11月24日**(木)
19:00～21:00

協議テーマ

I 選挙権年齢の引下げと

投票率アップへの取組について

- ・新居浜南高等学校
- ・新居浜工業高等学校



II 公共施設の

民間譲渡について考える

- ・銅夢キッチン運営事業者
- ・テナント入居者
- ・納入業者
- ・一般消費者



市民福祉委員会

日時 **11月25日**(金)
19:00～20:00

協議テーマ

I ごみ有料化後の

課題と取組について

- ・新居浜市連合自治会
- ・あかがね環境事業協同組合



※マスクの着用、手指消毒など新型コロナウイルス感染症予防の対策にご協力をお願いします。

お問い合わせ：新居浜市議会事務局議事課 ☎0897-65-1321

企画教育委員会

日時 令和4年11月24日(木) 19時～20時00分

場所 あかがねミュージアム多目的ホール



■司会 市議会議員 藤田 誠一



■開会挨拶 市議会議長 藤田 豊治

<第1部 選挙権年齢の引下げと投票率アップへの取組について>

【コーディネーター】愛媛大学社会連携推進機構：前田 眞 教授

【グラフィックレコーダー】岩下紗矢香

【パネリスト】※敬称略

(企画教育委員会)

- ・越智 克範議員 (委員長)
- ・大條 雅久議員
- ・藤原 雅彦議員
- ・篠原 茂議員
- ・神野 恭多議員
- ・片平 恵美議員

(新居浜南高等学校)

- ・天野 すみれ (3年生)
- ・白石 歩菜弥 (3年生)
- ・村上 凜 (3年生)
- ・川村 彩夏 (2年生)
- ・菅 美乃莉 (2年生)

(新居浜工業高等学校)

- ・高橋 琉聖 (2年生)
- ・秦 瑞希 (2年生)

記録

●越智議員〈委員長趣旨説明〉

平成 27 年の公職選挙法の改正により、選挙権年齢が満 20 歳以上から満 18 歳以上に引き下げられた。その後の投票率を見ると若者の投票率は決して高いとは言えない状況にある。しかし、高校生に対して行ったアンケートでは、社会や政治問題への参加についてどう思うかという問いかけに対し、参加すべきだ、参加したほうがよいと答えた高校生は 72.2%いた。この割合は他国と比べてそれほど低いものではない。自分が暮らしている地域の在り方や日本の未来について調べ、考え、話し合うことは公共の精神を育み、行動につなげていくことができると考えることから、市内の高校生と意見交換したいと考える。



○前田教授

若い人たちの政治参加についてということで一つの在り方が投票率のアップということになっていくのではないかと。よく主権者教育という言い方をしますが、国や社会の問題を自分事化して自ら考え、自ら判断して、行動していくことを学ぶことを主権者教育という。若い人だけではなく、大人も勉強しなければならないテーマだと思うが、委員長の話にあった社会や政治への参加と

いう問題に自ら考えていくほうが良いとしたのが 72.2%である。選挙できる年齢が下がり、皆さんも高校 3 年生になると投票できることになる。皆さんは、今までに投票したいと思った方はいるか。手が挙がったり下がったりしているので、先ほどの数字どおりかもしれない。では、選挙できる権利が得られたということに対して、皆さんはどう思うのか。投票をしたかった、戸惑いがあるなど、どなたでも構わないので発言をお願いする。

●秦さん（新居浜工業高等学校 2 年生）

年齢が下がることで、地元の若い人たちの声も聞けるため、下げたことはいいことだと思う。自分も積極的に参加したいと思う。

○前田教授

投票に行っても自分の意見を投票で表してもらおうというと思う。ほかの方は選挙できるということに対してどう思うのか。

●村上さん（新居浜南高等学校 3 年生）

先ほど秦さんが言ったように、私も投票ができる年齢が下がったことはいいと思うが、少子高齢化が進む中で、若者の意見が反映されやすいのかなと思うところがある。

○前田教授

自分たちの思いが、そのような形でもっと発揮できるかなというのがあるかな。ほかの皆さんはどうか。

●天野さん（新居浜南高等学校 3 年生）

若い人は、政治についてあまり分かっていないところがあったりすると思うが、年齢を下げることで、関心を持てたりするので、投票できることはとてもいいと思った。

○前田教授

皆さんは選挙権があることについては、

かなり肯定的に捉えていると思うが、社会に対して、もっと勉強するとか、勉強する機会がもっと欲しいとか、選挙権を行使するという意味でこんな環境があったらいいのにとすることはあるか。私は選挙権を行使するためには、今のままでいいのだろうかと思ったりする。投票するための準備ではないが、勉強も含めて何かしないといけないと思ったりする。いきなり選挙権が下りてきて、投票しなさいと言われても、戸惑うような気がするが、そういうことはないか。

●高橋さん（新居浜工業高等学校 2年生）

授業の一環として選挙などを学ぶことで選挙についても関心を持てたりすると思うので、授業などで取り組むことが大事だと思う。

○前田教授

実際に授業で学んでいるということがあるね。ほかの方はどうか。

●菅さん（新居浜南高等学校 2年生）

周りの同年代の人たちは、政治についてあまり分からないので、知っている人たちから教えてもらう場を取り入れるべきだと思う。

○前田教授

何かそのような場があれば、いいかもしれないということがあるよね。ほかはどうか。

●秦さん（新居浜工業高等学校 2年生）

先ほどの2人が言ったことと似ているが、授業などで、主権者教育などをすることはとてもいいことだと思うし、いろんなところでそのような機会をいっぱい増やせたらいいと思う。

○前田教授

例えば授業で主権者教育を学んだりする

と思うが、そのことについて、何かみんなで話し合うような時間はあったりするのか。授業のときだけという感じかな。

●村上さん（新居浜南高等学校 3年生）

今、ライフスタディⅡという授業で、私は主権者教育について学んでいる。それで、選挙のことなどに興味を持つようになったので、授業で学ぶことはいいことだと思う。

○前田教授

そのような授業がきちんとできるとすごくいいということはあるよね。今、高校生の皆さんに聞いて、国や社会のことについて学ぶ機会が授業の中にあるという話があったと思う。例えば、新居浜のこれからのまちづくりをこういうふうにしたいというような情報がないと、その主張に共感して、投票してくれるというような形の取組になりにくいと思う。若い人たちとの関わりみたいことでアイデアや考え方があれば発言していただきたい。

●片平議員

少しずれるかもしれないが、例えば社会の中で問題になっている環境問題や子供の貧困などについてニュースなどで見たりすると思うが、そういうことを友達と話す機会があるのかということをお伺いしたい。また、どのようなことが話題になりやすいか、みんなが興味を持っていることはどのようなものなのか、直接政治に関係なくてもいいので教えてもらいたい。

●天野さん（新居浜南高等学校 3年生）

ニュースなどを見る機会があまりなかったりして、友達とそのような話をする機会がだいぶ減っている。でも、私は自分の進路に関係している子供のニュースについては、気になっている。

●川村さん（新居浜南高等学校 2年生）

ニュースは見ているが、友達とニュースのことについて話しても、見ていないこともあるため、同じニュースの話題で話すことは少ないと思う。

●秦さん（新居浜工業高等学校 2年生）

僕はニュースなどを結構見たりして、友達ともニュースの話をしたりするので、しっかりと話はできていると思う。



○前田教授

社会問題みたいな話はなかなか話題に乗りにくい。例えば昨日のワールドカップの話や音楽番組の話だとみんなで話ができるということなのか。

●白石さん（新居浜南高等学校 3年生）

今回のサッカーのワールドカップなどの話は、学校生活の中でも友達とよくするので、そのような楽しい話や興味のある話であればよく話す。

○前田教授

例えば、子供に関するニュースや子ども食堂などのような話はあまり話題になることは少ないような感じがある。

●藤原議員

今の政治のニュースは、国会議員を中心として、国の政治の在り方が報道されている。今、統一教会のことや政治とお金の問題などが盛んに言われているが、政治にはす

ごい力がある反面、政治を行う人間がどうかということが非常に問われている時代だと思う。国会議員の不祥事ということではないが、そのような問題を見聞きしたときにどのような感想を持っているのか聞きたい。

○前田教授

統一教会のことでなくても、ウクライナの話など今の社会的なニュースを見てどう思ったのか。

●秦さん（新居浜工業高等学校 2年生）

北朝鮮からミサイルが降ってくるというようなニュースを前に見て、いつ落ちてくるか分からない状態で、すごく不安に暮らしている。

○前田教授

そういうことが、自分事化するというものにつながってくるのかな。ニュースを見て、聞いて、自分の身の回りに起きるかもしれないと思うことがすごく大事な気がするが、そのような機会をどうやったら作っていけるのかという話があると思う。高校生だけに任せるのではなくて、大人も一緒になって取り組まないといけない部分があると思うが、考え方やアイデアがあれば発言していただきたい。

●藤原議員

今日のような形を 365 日間持てば、対話できるが、物理的に無理だと思う。決定的なアイデアというわけではないが、ツイッターなどの SNS は、皆さんのほうがたけていると思う。行政としても市長へのメールという形で、一般市民が市長に対し、様々な問いかけをしている。それと同じように議会にも皆さんの声をメールやツイッターなどで投稿していただいて、政策などを行う

ことが現実としては一番いいと思う。

●篠原議員

主権者教育という言葉は、なかなか堅苦しい。皆さんがどのようなイメージを持っているのか不安だが、民主主義ということであれば、わかりやすいのではないかと思う。主権者は私たち国民一人一人だが、いつの間にか政治は他人任せが当たり前のような社会になったような気がしている。誰かにしてもらうのではなく、自分たちが考えてすることが、主権者ということではないかと思う。少し昔の話になるが、1963年にアメリカのテキサス州ダラスでアメリカのケネディー大統領が暗殺された。ケネディーの言葉で印象的な言葉がある。「国があなたのために何をしてくれるのかを問うのではなく、あなたが国のために何をなすことができるのか」という言葉は主権者教育の第1歩ではないのかと思うので、皆さんと一緒に考えていけたらと思う。

●大條議員

つい最近のことだが、韓国の人気ボーカルグループのB T Sがいつ兵役へ行くんだろうと思った。行くと決めたら一番厳しい場所を志願するというように言っていて、何でそうなんだろうという疑問を持った。スポーツでもそうだが、関心を持つきっかけがあると思う。社会に関心を持つきっかけということを考えてときに、会場の先生方に言うことかもしれないが、高校生は守られ過ぎているのではないかという思いがある。前回、高校生に来ていただいたときに、私は記念にSDGsのバッジを差し上げた。そのときに制服につけてもいいのかと私は問われたが、答えることができなくて、先生に聞いてと言った。そのときに、守られ過ぎ

ているのかなという思いを持った。

○前田教授

きちんと議論していいのかどうか、悪いとしたらどこが悪いのかという議論をしていくことがすごく大事なのかなという気がする。誰かに聞いてそのとおりにするということにするのか、議論をしていい方向を見つけ出していくという形で、判断していくのかということとは大事なところだという気がする。何かこういうことを言うと怒られるかもしれないが、今の規則が全て正しいのか、議論をした上で不合理なところは直していくほうがいいのではないかというようなことを話し合う場が基本的にないといけな。自分事化するにしても、そのような議論の場がないとなかなか難しいという気がしている。先ほどの主権者教育も授業の中で話していくようなことができると、僕はすごくいい場になっていくと思う。例えば、皆さんが新居浜市の未来のことについて意見を言いたいとなったときに、どういう形で誰に対して言うのかという話があると思う。授業の中でそのような場があるのかな。

●高橋さん（新居浜工業高等学校 2年生）

授業ではそういった時間はあまりない。

○前田教授

勉強のことも大事だからということがあるかなと思うが、そのような機会を少し増やしていかないと、いきなり主権者教育や新居浜のことを考えなさいと言っても、考える情報がなければ、考えようがない。そういうことをしないと投票率アップにはつながらないという気がするがどうか。

●越智議員

一番初めの前田先生からの問いかけに、

興味がある、若者の意見が反映できる、選挙できることが増えることを期待すると皆さんは言っていた。私はものすごくありがたいと思うが、それでも日本の中で若い人の投票率は伸びていない。なぜかと考えたときに政治が難しいものだから、自分たちの身近なものではないと思っている若者が多いと思う。自分の1票は小さいから、まあいいやって考えてしまう人が若い人には多い。それに比べてお年寄りの人は、地元のために私は1票をとと言える人が多く、60代、70代の方は、非常に投票率が高い。だけど、そうなってくると高齢者のための政治はできるが、若い人たちが望む政治ではなくなってしまう。我々がいつも思うのは、若い人が何を考えているのか、またそのようなことを聞ける場が欲しいと思うから、今日みたいなフォーラムを開いて、高校生が大人になっていく間に、どんなことを政治にしてほしいか、自分たちの課題についてもっと考えたら、投票することに対して興味が出てくると思う。例えば市議会議員がどのようなことをしたのかを見るだけでも、ものすごく興味が出てくると思う。市議会議員に限らず、国会議員も県議会議員でも、その人たちが普段どのようなことを言っているかを少しでもいいから聞いてもらうとものすごくありがたい。市議会を聞きに来てくれた人もいると思うが、議員が何を考えているかということ一度でいいから聞いてくれるとわかるのではないかと思う。議会についてどう思うのか。

○前田教授

議会についてどう思うかという質問だが、議会は何をするところなのかわかるか。

●秦さん（新居浜工業高等学校 2年生）

正直なところ、議会が何をするとところかというのは分からない。

●藤原議員

議会という話があったが、毎年南高の皆さんに議会を傍聴していただいていると思う。この中にも傍聴された方がいると思うが、そのときにどのような感想を持ったか、率直な意見を聞きたい。

●村上さん（新居浜南高等学校 3年生）

私は1年生のときに傍聴に行ったが、正直なところ、内容が難しすぎて、分からない部分が多かった。

●天野さん（新居浜南高等学校 3年生）

私も1年生のときに市議会の傍聴に行かせてもらったが、話の内容が難しかったり、ワークシートに少しでもいいことを書こうとして、話の内容をしっかりと理解できていなかった部分があった。

●秦さん（新居浜工業高等学校 2年生）

直接見たことはないが、議会については、しっかり勉強したいと思っている。

○前田教授

勉強してもらおうとすごくいいと思うが、どうもうまく伝わっていないような感じである。

●片平議員

2年前の新居浜市長選挙のときに候補者が2人いて、一人は高校生までの医療費の無償化を、もう一人は学校給食費の無償化をと言って、選挙をした。医療費の無償化をと言った石川市長が今の市長になり、高校生の医療費を窓口で払わなくてよくなった。例えば、自分が市長になったらこんなふうになったらいいなと思うことは何かあるか。高校の学食に豪華な食事を安く提供することは市長にはできないかもしれないけど、

こういう願いがあるというのがもしあれば、聞かせてもらいたい。



○前田教授

皆さん、市長になったらこんなことをやりたいということはあるのか。

●秦さん（新居浜工業高等学校 2年生）

僕の場合であれば、学費などの費用を減らすことをする。

○前田教授

すごくまじめに考えてくれている。先ほどの質問も含めて、例えば高校生の医療費の問題については、高校生自身よりも親御さんの問題という気がする。だから、親御さんに対してはすごく伝わるし、いいと思うけど、高校生のみんなが、今後の高校生活や卒業後に新居浜で暮らすとしたらどうかみたいなどころの話をしないと自分事化しにくいと思った。新居浜での生活を自分事化するというのを考えたときに、将来新居浜を背負っていく若い人たちからしたら、こんな新居浜だったらいいというようなことが議論の対象になる。それができるのかできないのかとか、どうやったらできるのかというような議論になっていくことが大事だと思うが、そういうことを話す機会があまりないのかな。

●大條議員

例えば、毎朝学校に行くときに、あの交差

点は危ない、もしくはいつも通っている道で自転車と車とがすれすれで怖い思いをしたといった自分の実体験から、ここを変えてほしいとか、自分を守るために、もしくは自分が快適に暮らすためにという発想で何かないか。

○前田教授

今ある環境を変えようがないと思ってしまうと発想は浮かばないと思う。だけど、少しでもよくなるようなことを考えていくと、通学のとこにあそこを直してほしいとか、もっと自転車の空間を取ってほしいとかということがあるのかなと思う。

●高橋さん（新居浜工業高等学校 2年生）

通学路の途中に、新居浜でも事故が多い交差点があるが、信号などもわかりづらい。信号などをしっかりしていけば、交通事故も減っていくと思うので、取り入れてほしいと思う。

○前田教授

自分たちの生活実感の中で、こういうことを直したいとか変わったらいいいというようなことを話し合うことがすごい大事だという気がする。

●菅さん（新居浜南高等学校 2年生）

私は新居浜がこうなったらいいなということを考えたりすることがあるが、今治市は、サイクリングなどで自転車の貸し借りがいっぱいあるイメージで、新居浜市は娯楽施設がすごく少ないイメージがあるので、新居浜市もサイクリングの自転車の貸し借りを取り入れたら、新居浜で遊べることももっと増えるのではないかということ考えたことがある。

○前田教授

このような意見を大人としてどう受け取

っていくのかみたいなことがあると思うが、そのあたりはどうか。

●大條議員

事故が多い交差点については、自分が気がついたら、藤原議員が言ったように市長へ手紙を書くことができるし、とても歓迎する。この場では具体的にどこと言えなくても、交差点名と名前を書いて、ぜひ市長に手紙を出してほしい。また、サイクリングロードの整備についても書いてほしい。市長への手紙は私たちも読んでいます。

●神野議員

私自身も高校3年生の娘がいて、高校生の話を聞かせてもらう中で、先ほど言われたような遊ぶ場所がないことなどの話はたくさん聞く。それを動かすのが政治かもしれないが、それも含めて、政治はそんなに固いものではなくて、例えば、あかがねミュージアムを建てるのも、文化センターを建て替えるのも政治であって、みんなの意見をどんどん入れてほしいけど、なかなかそれを吸い上げる場所がない。例えば、インスタグラムやティックトックなどでの書き込みはなかなか目につくことがないかもしれないが、こういう場を作ってほしいというようなことがあれば参考にしたいので教えてほしい。

○前田教授

どんな場があれば、自分たちの言いたいことが言えるかということはあると思う。SNSなどいろいろあると思うが、皆さんが自分たちの意見を少し出してもらえ場所として学校が一つあると思うが、学校外でこんな場があったらもっと自分たちの言いたいことが言えるのということについての考えはどうか。

●川村さん（新居浜南高等学校 2年生）

先ほども話ができたように、最近はSNSをたくさん活用していて、自分もツイッターやインスタグラムなどをよく見るが、どちらも個人で話ができるというところがあり、新居浜市に意見をくださいというようなアカウントがあれば、空き時間や自分がこうしたいと思ったときにすぐに入れられる。今はハッシュタグなどで、すぐに目につくようなこともあるので、そのようなことができれば、もっと意見が集まるのではないかと思う。

●天野さん（新居浜南高等学校 3年生）

私は、よくイオンモールに行くが、高校生も若い人も、いろんな年齢層の方がイオンモールに来ている。もしかしたら取り組まれていることかもしれないが、イオンモールにアンケートボックスのようなものを、よく目につくところに設置したら、意見を書いてくれる方がいるのではないかと思う。



○前田教授

SNSやコミュニケーションボードみたいなもので話せたらいいかなというのがあると思う。市長や議会に対して、いろんな意見をSNSで伝える仕組みはあるのか。

●藤原議員

新居浜市のホームページには市長への手紙として、メールが送れる。また、公式LINEアプリが新居浜市にあり、公式アプリの中

に若者の声というカテゴリを作れば、手軽に使えるので、具体的にはそのようなことができるのではないかと思います。

○前田教授

それは今あるわけではなくて、これからという話なのか。

●藤原議員

それは行政のほうでしっかりやっていただきたいと思う。

●大條議員

あと公式LINEアプリで、道路に穴が開いている、水路の蓋が壊れているところをスマホで写真を撮って送ることができる。ぜひ活用してほしいし、市のホームページも見てほしいと思う。

○前田教授

大人側が頑張って発信しているが、なかなか伝わっていないという現実がある。どのような伝え方をしたら伝わりやすいということはこれから少し研究してみないといけない部分があると思う。会場の皆さんで若い人たちの選挙に関するようなことで、御意見があれば、挙手をして発言いただきたいと思うがいかがか。

●会場（男性）

高校3年生の方は3人とも18歳を迎えられているのか。

●天野さん（新居浜南高等学校 3年生）

3人ともまだ18歳にはなっていない。

●会場（男性）

18歳になっていれば、投票に行かれたのか、今回の知事選の話を確認したかった。情報の共有化については、ITで共有する方法もあると思うが、皆さん方がお父さんとお母さんを含めて家庭で話をするような、時間はあるのか。議員の先生方も、高校生や

もっと若い世代の子供さんがいると思うが、子供さんからそのような意見を聞いているのだろうか。家庭の中で親との交流という点が持たれているのかなということを若干感じた。

○前田教授

親御さんとそういうことを話す機会はあるのだろうか。

●秦さん（新居浜工業高等学校 2年生）

僕は食事のときに家族と選挙などについて話し合ったりするので、話し合う機会はある。

●高橋さん（新居浜工業高等学校 2年生）

僕は政治の話からは離れてしまうが、先ほどの事故があったりするところの話をして、改善点などの話をしたりする。

●菅さん（新居浜南高等学校 2年生）

私は親と過ごす時間の中で、一緒にニュースを見たりするときには、自分の意見なども話し合ったりする。

●川村さん（新居浜南高等学校 2年生）

食事のときは家族みんなで食べるので話すが、ニュースというよりも、学校であったことを自分がいっぱい話してしまう。朝はニュースを見るが、食事のときはニュースの話はあまりしていないと思う。

●村上さん（新居浜南高等学校 3年生）

私は普段は学校のことなどを親に話したりするが、選挙が近づいてくる時期には、母と兄が選挙に行こうかという話をしているのをよく耳にする。

●白石さん（新居浜南高等学校 3年生）

私たちは研究活動として主権者教育について研究しており、今は自分自身も興味があり、親と話すことがあるが、このような研究をしていなかったら、親と話すこともな

いのだろうと思った。

●天野さん（新居浜南高等学校 3年生）

私も学校で主権者教育などを学ぶようになって、選挙や政治のことを少しではあるが話したりする機会が多くなった。また、ニュース見て、それこそ統一教会や大臣の辞任について、母と話をする機会があった。

○前田教授

家庭の中でもそれなりに話す機会があったりするのかな。そろそろ時間なので、最後に言っておきたいという人があれば。

●片平議員

イオンによく行くと言っていたが、例えば投票所がイオンにあると、選挙に行く人が増えるのではないかと思うか。

●天野さん（新居浜南高等学校 3年生）

投票した後に買い物もできたりして、一石二鳥だと思うので私は増えると思う。後からでも楽しめるのでイオンにあればいいなと思う。

○前田教授

会場からも発言がなければ、まとめに入りたいと思うがよろしいか。

●会場（男性）

議員の皆さんから生徒に質問することが多かったが、生徒から議員の皆さんに質問したいこともあると思うので、ぜひ聞いてもらいたい。

○前田教授

高校生の皆さんから質問したいことはあるか。

●村上さん（新居浜南高等学校 3年生）

私たちは今日来ている3年生の3人ともう一人を加えた4人で主権者教育を勉強している。今回の話の中で投票率アップはどうしたらいいのかということがあったが、

愛媛県知事選挙の投票率が33%ほどで、そこからどれくらい上げたいと考えているのか。具体的な数字を聞きたい。

●越智議員

日本の場合、選挙が始まった頃には、投票率が70%から80%あった。それが、ここ30年、40年で50%を切っている。この前の知事選では新居浜が2番目に悪く29%で、3人に1人とか4人に1人の意見しか通っていないということになる。私は最低でも50%、2人に1人は意見が反映できているということが少なくとも必要だと思っている。やはり多くの意見を反映しないとイケないし、先ほども言ったが、お年寄りの投票率は高く、若い人の投票率は低い。若い人が10%台でお年寄りの方で70%台になる。そうすると、お年寄りのための政治になってしまうのが、一番怖い。そのためには、若い人が最低でも50%くらいの投票率になってほしいと思っている。

●天野さん（新居浜南高等学校 3年生）

投票率アップへの取組について、新居浜市ではどういうことをしてきたのか教えてほしい。

●藤原議員

先ほど片平議員が言ったように、前から大型施設に期日前投票所の開設ということを議会質問している。それに対して市のほうからはあまりいい答弁がなくて、それをこれからどうやっていくかということになる。また、投票に来ないのであればこちらから出向くということで、今回の県知事選では南高に公用車を使った移動投票所を開設している。我々も非常に危機感を持っており、できることからやっつけようということで取組をしている。



●村上さん（新居浜南高等学校 3年生）

先ほど高齢者の意見が反映されやすいという意見があったが、前に私たちの学校で投票率低下の問題の原因をアンケートしたところ、高齢化が進み、高齢者の意見が通りやすい環境が整ってしまっているから、私たち若者が投票しても無駄なのではないかという意見が出た。その意見を聞いてどう思うか。

●越智議員

決して議員が高齢者のためにメッセージを発信しているわけではない。若い人にもっと投票に行ってもらいたいから、若い人が興味のあるテーマをもっと発信したいと思っている。ただ一つ心配なのが、若い人がきちんと我々のメッセージを受け取ってくれているかが心配である。先ほど議会を傍聴したときは、難しくてよく分からなかったと言われたが、我々は普段から易しく、皆さんにわかりやすいテーマで発信しないといけないと思っている。それがたまたまお年寄りにわかりやすくなっているだけかなというように思う。というのもお年寄りはやってほしいことが具体的に決まっている。例えば、どこの道路を舗装してほしいとか、どこが汚いから直してほしいとか。先ほど言っていたように若い人も、サイクリングロードがあればいいとか、信号が必要とか、

そういうことが分かれば議員は動ける。だから若い人も議員にどういことをしてほしいのかを言ってくればいい。そしたら、議員もそれに対して応えていく。応えられることと応えられないこともあるかもしれないが、お互いにコミュニケーションを取れば分かるのではないかと思う。今日のような機会をもっと作ってほしいと議員も思っている。若い人たちとこのように話し合える場や、若い人たちが要望してほしいことをどんどん出してくれたほうが、我々も動きやすいし、投票率もアップするかもしれない。

●篠原議員

私たちは校区の小学生や中学生とは話をする機会がたくさんある。でも高校生となるとこのような話し合える機会がなかなかない。委員長も言われたが、皆さんが思っていることを近くの議員にも言ってくれたら、議員が市役所に届ける。何も言わないと市役所からこういうことをしようかということとはなかなか言えない。皆さんの声を近くの議員に伝えてくれたら、議員は無視をせず、一生懸命動くので、皆さんの声を近くの議員に伝えてくれるようお願いしたい。

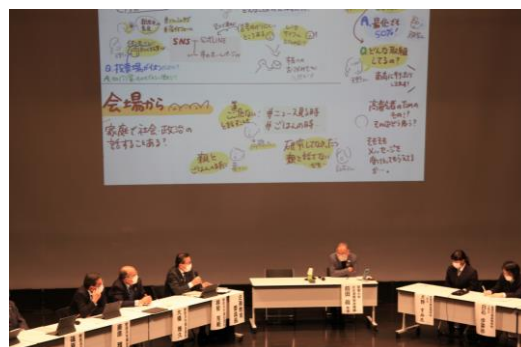
○前田教授

大人は意見を待っているみたいだが、なかなかそうは言いながらも現実はそのような場がなかなか設定しにくいこともあった。若い人たちの考えも聞かせていただいて、後ろで岩下さんに板書してもらっているが、岩下さんのほうから感想も含めてお願いできたらと思う。

○岩下さん（グラフィックレコーダー）

後半のこの場は、キャッチボールの対話の場になっているなどすごく感じており、

SNSなどのいろんなツールはあるけど、対面で話し合うことがとても大事ではないかと感じた。議会の人たちは学校の授業などに行って、分からないことを聞くとか、距離が近い形でしていきながらSNSに移行していく形がいいのではないかと聞いていて感じた。



まとめ

○前田教授

やはり学びの機会はすごい大事である。主権者教育を学んでいるといろいろなことに気がつくことがあると思う。気がついたところをどう発信するのかみたいところで言うと、伝え方の問題は大きくて、伝える場も含めて、そこがまだ不十分だと思う。それは大人側からいうと聞き方の問題で、漠然とした聞き方だとなかなか答えが出ない。今日は私も漠然とした問いかけをしてしまい申し訳なかったが、具体的な問いかけをすると反応しやすい部分があるし、そういうことができる場を作っていく。このようなリアルな場もSNSも両方とも必要と思う。そのような形で対話できる場を今後どう作っていくかというのは大きな課題だという気がする。お互いがいろんな意見を双方向に交わしやすい環境づくりをしっかりとしないと投票率を上げるとか、関心を持ってと言っても、無理がある。関心が持てるような環境をつくらないといけないし、その中でどうやって投票率をアップさせるか、いろんな考えがあると思うが、そういうものを使っていくことが大事なのだと思った。今日の意見交換が今後の若い人たちの政治参画も含めて、関わっていけるようになればいいと思っている。

日時 令和4年11月24日(木) 20時05分～21時10分

場所 あかがねミュージアム多目的ホール



■司会 市議会議員 伊藤 嘉秀

<第2部 公共施設の民間譲渡について考える>

【コーディネーター】愛媛大学社会連携推進機構：前田 眞 教授

【グラフィックレコーダー】岩下紗矢香

【パネリスト】 ※敬称略

(経済建設委員会)

- ・白川 誉議員 (委員長)
- ・藤田 誠一議員 (副委員長)
- ・仙波 憲一議員
- ・藤田 豊治議員
- ・伊藤 謙司議員
- ・高塚 広義議員
- ・井谷 幸恵議員
- ・合田 晋一郎議員

(銅夢キッチン運営事業者)

- ・越智 俊博 (株式会社銅夢市場代表取締役)

(テナント入居者)

(納入事業者)

(一般消費者)

記録

●白川議員<委員長主旨説明>

新居浜市まちづくり協議会が平成25年の発足以来、中心商店街の活性化を目的に、公共施設の旧新居浜市商業振興センターの有効活用の検討を続けた結果、令和3年3月に産直市場銅夢キッチンとして開設した。営利企業への市有財産の譲渡及び貸与は新居浜市政初となったが、コロナ等の影響もあり事業運営が苦戦している状況と聞いている。人口減少時代の中で、今後、公共施設の民間譲渡についての検討も増える可能性があることから、初事例である銅夢キッチンについて、反転攻勢に向けての材料集めについて様々なご意見をお聞きしながら、新居浜市全体で中心市街地活性化に向けて考えるきっかけ作りをしたい。



○前田教授

テーマとしては、市有財産を譲渡することが地域の活性化につながるのか、銅夢キッチンがどう活性化に向かっていくのかの2つの観点があると思う。まず、銅夢キッチンについて団体の皆さんから現状や意見等、御発言をお願いする。

●越智代表取締役（株式会社銅夢市場）

商店街の活性化という目的を掲げ、銅夢キッチンを核としてにぎわいを創出するという形でオープンした。産直市を運営する中で専門家の意見を参考にしながら様々なことに挑戦したが、コロナの影響もあり、想定した結果が出せなかった。結果が伴わない状況もあり、運営していた支配人、店長が合計で3人代わる状況。銅夢を再生するために、11月1日から私が毎日銅夢に通っている。様々な問題点があるが、背景として新居浜には農家数が少なく、出荷数も少ない、商品量も充分供給できない状況が続いており、思うような品ぞろえができない状態が続いていた。10月に再構築に向けて、新居浜、西条、周桑の全ての農家に個別に協力依頼を行い、全体的に前向きな回答を得ることができ、野菜、果物が満載になる状況にまで持ち直した。それに伴い、客数、売上げも多少挽回した。11月19日、20日にイベントを行い、久しぶりに500人を超える買物客が来て、2日共に盛況であった。銅夢キッチンがあまり知られていない状況があるため、来てもらうためにイベントを頻繁に行うつもり。先日もキッチンカー等を店頭にそろえ、中ではピザなども販売した。お客さんを呼ぶからには、商品を充実させる必要があるため、農家に依頼している。毎月恒例のイベントとしていきたい。今後は、料理教室や、デリバリーを開始するなど、様々なことを構築しようとしている。地道に取り組むことで少しずつ売上げを伸ばして、目標の数字に近づけていきたい。

●テナント入居者

前店舗の老朽化に伴う移転という形で当初から参加している。総合店舗であるため以前よりも多い集客が見込めるため移転したが、鳴かず飛ばずの状況。テナントという立場上、メリットが無ければ出ていくという選択肢もあるが、現在様々なイベントを行い、集客数を増やそうと努力しているため、協力したい。私なりに思ったことは社長に伝えて、前に向いて進むよう努力していると思う。

●納入事業者

いちごを作って、12月から6月まで銅夢キッチンで販売している。オープン当初から販売しているが、1年目は認知度が低いこともあり、どこに出すよりも売れない状況。宣伝をインスタグラム中心に自分でも行い、ある程度お客さんもついてきた。時期的に自分の出荷も始まるため、少しでも販売量を増やせるようにしたい。しかし、周囲の生産者はものを作るのが仕事のため、宣伝やアピールなどは苦手で、農協の既存のあかがね市を利用する人が大半だと思う。銅夢キッチンに出荷するメリットがあまりないため、出荷している生産者が少なく、私たちの意見がある程度融通してくれるというメリットはある。他でやっていないようなことをやってくれたら出荷者が増えると思う。

●一般消費者

品物が良いというのは大前提として掲げていると思うので、周囲のスーパーとの差別化、銅夢キッチンを選んでもらう、自分が何故銅夢キッチンに行くかということになる。子育て世代にとっては、子供と買物に行ったついでにお茶を飲むイトインスペー

スがあったり、子供を遊ばせる場所があったり、買物だけではなく、銅夢キッチンに留まる時間を長くとれるようにすると思う。何かきっかけを作ってもらえると足を運びやすくなる。七夕の時期に子供たちが書いた短冊を飾っていたことがあったが、そういうことがあると親は見に行くと思う。地元の小中学生と密着して親が見に来くなるような小さいイベントで集客するのも良いのではと思う。

○前田教授

子育て世代を含めたニーズがあるのではと思う。私と岩下とで銅夢キッチンで買い物をしたので、感想をお願いする。

○岩下さん（グラフィックレコーダー）

営業やバイヤーを経験した目線から見ると、商品の配置が分かりやすく、ベビーカーでも通りやすい通路幅があり、子育て世代にも向いている買物しやすい場所との印象を受けた。また、気持的にも場所的にも明るい素敵な場所だと思った。商品のセレクトも良かった。

●越智代表取締役（株式会社銅夢市場）

目指す方向を明確にする必要がある。スーパー等との差別化をはっきり打ち出していくことが生き残る道だと思う。

○前田教授

例えば行政側からこういう応援があれば助かるといったことはあるのか。

●越智代表取締役（株式会社銅夢市場）

商店街の活性化の起爆剤として銅夢キッチンを位置づけているため、一民間企業という位置づけでは困る。まちづくりとしてこの施設を捉えてもらいたい。一緒にどうやって銅夢を核として商店街を盛り上げていくかを考えてもらいたい。

○前田教授

まちづくりのひとつとして銅夢キッチンの活性化が、中心市街地及び新居浜市の活性化につながると思うが、議員の皆様からの意見を願います。

●伊藤議員

銅夢にはまには遊具があったが、現在は駐車場となっている。子供が遊ぶ場所は大事だと思う。でも、遊具は高額なので、その設備購入を行政にお願いしたことはあるか。

●越智代表取締役（株式会社銅夢市場）

お願いしたことは無い。元の遊具があった場所は駐車場になっているため、憩いの森を多目的な広場として子供たちが遊べる公園にすることなどを考えていただけるとありがたい。



●井谷議員

銅夢キッチンとしての良さ、強み、特徴はどう捉えているか。

●越智代表取締役（株式会社銅夢市場）

私の思いとして、スーパー以上百貨店未満の位置付けのものにしようという構想があった。身近では買えない、ある程度の高級志向の客に合わせた商品を供給していきながら、産直市として新鮮で安全で安心でおいしいものを提供し、差別化できる商品を生産者と共に販売していきたい。

●合田議員

産直市としてだけ考えると、運営事業者、テナント入居者、納入業者、一般消費者の4者の話だが、平成25年からまちづくり協議会という形で市が関わって、公共施設を譲渡してまちづくりを考えていったということは、新居浜市が関わっていることであるため、譲渡したから終わりということではなく、5者の立場として今後も関わっていく必要があると思う。5者が知恵を出し合い、均衡を崩さないように関わっていく必要がある。

○前田教授

行政がどう関わるかが大事だと思う。そのあたりの意見を願います。

●高塚議員

様々な世代のニーズにフォーカスしていくことが大事だと思う。楽しい場所には人が集まるという考え方のもと、消費者の考えについて細かなリサーチをしていくことが行政側にも求められ、肝要であると思う。

●藤田豊治議員

銅夢キッチンにしかない、また、消費者が行きたいという銅夢キッチンにしないといけない。商店街の活性化という大きなテーマがあるため、例えば、業績や取組内容について一か月に一度程度行政と検討し合う場を設けるといった、行政と一緒に考えていく方法もあると思う。

●藤田誠一議員

会議室があるということだが、例えば、市民相談で会議室を利用して、みんなでお昼ご飯を食べて、14時位にパンケーキを食べたり、ウィークデイで会議室を利用して、一か月に一度議員が会議を行ったり、行政だけではなく私たちが応援できるような、一

度銅夢キッチンに行って会議室借りて何か食べてみようとなる、会議室を利用したアイデアを出してもらえたらと思う。

●仙波議員

まちづくりと一緒に作るというのは非常に難しい部分があるが、その一つの課題としてにぎわいがある。イベントの際に人が来ているのであれば、毎月一回でも確実にイベントを行い、行政にも様々な会合などがあるので、例えばそれを銅夢キッチンで行うというようなお手伝いはできると思う。隣の憩いの森も遊具を置くスペースは充分にとれると思う。問題はそれと昭和通りや登り道をどうリンクさせるかで、そこを考えるのは行政の仕事だと思う。何年もしていないが、別子の銅の道というのをしたこともある。そういうことをすることによって、中心商店街の位置付けというものに対しての動きを作っていく必要があると思う。



●白川議員

皆さんの話を聞いて、協力者をいかに増やすかということが大事だと思う。農協ができないこと、スーパーにできないことをするのが産直市の売りだと思うので、そのためには社長が旗を振りながら様々な人を巻き込んでいくことが大事だと思う。そのために我々も動いていかなければならないと思う。

○前田教授

様々なアイデアが出てきて、一歩ずつ実現できればいいと思う。会場の方々からも意見を願います。

●会場（男性）

このような重要インフラは官公庁がすべきだと思う。話を聞くと、責任を銅夢キッチン運営事業者に押し付けているような感じがする。市が音頭を取り、業務は運営事業者に委託し、それでも不足するところは市議会議員さんにも動いてもらうようにすべきだと感じた。

○前田教授

公共事業として銅夢キッチンをどう活用していくかということで、今回は譲渡という形をとったが、方法として指定管理、委託など、行政と事業者の協働事業の様な在り方は様々あると思う。その事について検証しながら是非を考えていかないといけないが、今の形で銅夢キッチンをどう活性化していくかを考えると、これまでに出てきたアイデアが大事だと思う。

●会場（男性）

新居浜市で初めて民間譲渡という形をとったということについてももう少し議論すればと思う。既に譲渡して運用している銅夢キッチンをどう活性化するかについてだけでなく、譲渡することについての議論を聞きたい。

●会場（男性）

先ほど 500 名が来たと言われたが、銅夢キッチンに来た人がどこから来たかのデータ分析はどうなっているのか。また、以前青年会議所が太鼓井を海の幸と陸の幸を使って作った。こういった新居浜市の特色を生かしたものをやろうとすれば市を挙げてやらないと難しいのではないかと思う。しか

し、特化していくと、影響を受けて小売店の売り上げが落ちるのではないか、そうしたことへの配慮もしながら市を挙げてのイベントが必要ではないか。

●越智代表取締役（株式会社銅夢市場）

来場者の分析はしていない。今回はチラシを市内限定で配布したため、ほとんどは市内からの来場だと思う。

○前田教授

譲渡したことについての評価については、もう少し時間がたたないと評価は難しいのではと思う。

●白川議員

オープンして数年しか経過していないので、一時的な評価は難しいと思う。ただ日本全国を見渡すと、産直市を行政が行ってことごとく失敗しているという背景もある。茨城県の境町では、人口約2万5千人だが、民間が産直市場を始め、加工施設を作り、納入業者が喜ぶような加工品を作り、出口はふるさと納税で流すという出口まで決めた方法を取り、新居浜市の5分の1の人口にも関わらず、ふるさと納税が48億円で関東ナンバーワン。新居浜が5億円弱。きっちりと評価しながら、行政ができることできないこと、民間ができることできないことを、これからの時代はお互い様でやっていかないと厳しい。しかし、税金なのでしっかり一次評価、二次評価ということはしないといけないと思う。

まとめ

○前田教授

譲渡の評価についてはもう少し時間が必要だが、その視点で現状を見ておかないと評価できないため、そういう視点で施設の運営を見るのは大事だと思う。まちづくり

の一環として考えると、銅夢キッチンが有する公益性を評価するのが大事だと思う。評価としては、例えば、銅夢キッチンに人が来て、近隣の商店街にも人が流れていくような仕組みとなっているとか、銅夢キッチンが儲かった部分を近隣の農家に分配しているとか、文化的なイベントを支える基盤となっているとか、一面的な評価だけではなく、様々な評価項目を含めて譲渡した良さが評価される必要がある。新しい取組をしているので、評価する視点を持つことが大事だと思う。行政と事業者がコラボレーション、議論して組み立てていくのが大事と思う。新居浜市中心商店街の宝だと思うので、うまく活性化できるようになればと願いながら、意見交換を終了したい。



■閉会挨拶 市議会副議長 高塚 広義

市民福祉委員会

日時 令和4年11月25日(金) 19時～20時20分

場所 あかがねミュージアム多目的ホール



■司会 市議会議員 大條 雅久

■開会挨拶 市議会議員長 藤田 豊治

<ごみ有料化後の課題と取組について>

【コーディネーター】愛媛大学社会連携推進機構：前田 眞 教授

【グラフィックレコーダー】岩下紗矢香

【パネリスト】※敬称略

(市民福祉委員会)

- ・伊藤 嘉秀議員 (委員長)
- ・田窪 秀道議員 (副委員長)
- ・藤田 幸正議員
- ・永易 英寿議員
- ・黒田 真徳議員
- ・河内 優子議員

(新居浜市連合自治会)

- ・坂上 公三 (会長)
- ・藤原 説夫 (副会長)
- ・星加 勝一 (副会長)
- ・阿部 由美子 (女性部部长)

(あかがね環境事業協同組合)

- ・太田 初 (理事長)
- ・佐々木 雄介 (理事)
- ・沼田 啓嗣 (職員)

記録

●伊藤議員〈委員長趣旨説明〉

新居浜市では今年10月1日より清掃センターへの家庭ごみ直接搬入と大型ごみ戸別収集を有料化した。市としては長年ごみ減量化に取り組んできたが、現状としては令和2年の一人1日当たりのごみ排出量は、全国と愛媛県の平均は870グラムに対し、新居浜市は1,035グラムと約150グラム多い状況である。地域のごみステーションに出される家庭ごみの量は愛媛県の平均と同程度であるが、清掃センターなどへの直接搬入量は、全国平均が一人1日当たり610グラム程度、新居浜市は740グラム程度と一人1日当たり130グラム程度多くなっており、近年ではそれが増加傾向である。このため有料化に踏み切ることとなった。本日は有料化から2か月弱しか経っていないが、有料化により現在起こっている課題や今後予測される課題、また、今後のごみ減量化に向けて行政によるどのような施策が必要であるか、意見交換を行いたい。



○前田教授

今回の有料化についてはごみの減量化が

大きな目的であることでよいか。そういったことを含めて、まだ2か月弱しか経っていないが、有料化が動き始めて自治会や組合のみなさんが現状でこういったことが起きている、困っているということを発言お願したい。

●星加副会長（新居浜連合自治会）

10月1日から有料化されているが、現状では、どの程度ごみが減っているのか分かれば教えてほしい。

●伊藤議員

令和4年4月までの1か月の平均台数は約1万台程度であった。有料化直前の9月の持ち込みごみの台数は1万8,000台ほどまで増えたが、有料化後の10月は約2,100台と、4月以前の5分の1程度まで減少している。ただし、8月、9月に増加した反動もあると思われるため、今後の増加も予想される。その増加を抑制できるようなご意見をいただきたい。

○前田教授

直前の駆け込みで持ち込みが増えたこともあるが、現時点では5分の1まで減っている状況ということである。

●坂上会長（新居浜市連合自治会）

不法投棄の問題、川東、上部のほうでは不法投棄の問題で苦情があると聞いている。行政ではどのような対応をするのか。

○前田教授

有料化されれば不法投棄の問題も出てくる可能性があるが、その点についてはどうか。

●田窪議員

自治会のごみステーション、川や山に不法投棄があることは目につく。昨年度、市では自治会が管理しているごみステーションに非自治会員にごみを捨てることを許可する代わりに自治会に交付金を渡すこととなった。そのことが原因かどうかは分からないが、ごみステーションに分別されていないごみが増えている。非自治会員への分別方法やごみカレンダーの配布など、市の広報による呼びかけを強めるべきではないかと感じている。

○前田教授

周知が大事である。

●藤原副会長（新居浜市連合自治会）

大型の収集ごみについて、大きなたんす一つと小さな傘一つが同じ値段であることが不満である。傘は束ねれば一つと数えてもよいとも聞いたが、このようにすれば料金を抑えられるといったPRが必要と感じる。また、ごみの減量については、プラスチックなどの資源ごみでも燃やすごみとして排出されているものもあると思う。それらをいかにして回収資材として活用できるか、分別して排出すれば、市として年間この程度収益が上がるといったことをPRすれば、市民の意識が変わって資源ごみとして排出される可能性もあると思う。

○前田教授

収集ごみについて、束ねると一つとして対応できるのではないかと話と、分別すれば資源になるのに燃やされているの

ではないかといった話であったが。

●太田理事長（あかがね環境事業協同組合）

組合の業者が大型ごみの収集をしているが、市民が市役所に収集依頼をした時点で、ある程度説明は行っている。広報紙などでPRは足りないところもあるかもしれないが、依頼の電話があった時点で、傘であれば5本を1つの束にしていればいくらといった説明は行っている。大きなPRはできていないかもしれないが、電話ではそれなりに説明はできていると思う。

○前田教授

個別の収集相談があれば答えられるということである。

●永易議員

市のHPに掲載はしているが、そのページまでたどり着く必要がある。そこにはごみの出し方などは掲載しているが、PRが不足しているとは感じる。

○前田教授

HPでたどり着けない人はそういった情報を得にくいため、直接電話で聞かなければならない状況ということである。電話で収集依頼する場合は電話で案内することであるが、清掃センターに持ち込む場合は重さに応じて金額が算出されるということである。

●佐々木理事（あかがね環境事業協同組合）

持ち込みごみについては50kgまで500円、それ以降は10kgごとに100円加算される。

○前田教授

出す側としてはそのあたりが周知されて

いないと、出すときに困るといったことはあるか。

●藤原副会長（新居浜市連合自治会）

ごみの量について、50 kgで500円と聞けば、ある程度の量だとは思いますが、新聞紙であれば2～3束程度の量だと思う。そのように考えると高いと感じる。ただ、有料化がスタートしたばかりでもあり、急に金額が変更されることはないと思う。できるだけ持ち込みごみも減らしたいし、燃やすごみも減らしたいということで、資源としてどのようにして回収するかということを考える必要がある。



○前田教授

資源化に向けた取組は何か行っているか。

●伊藤議員

10社のスーパーマーケットとの連携により、資源ごみの回収ボックスを置いてもらっている。ほかには資源回収事業者が各自の敷地内に回収ボックスを置いている。燃やすごみで安易に出すのではなく、リサイクルする方向に持っていきたいと行政も取り組んではいるが、まだまだPRが足りないとは感じている。

○前田教授

PRはやり続けていく必要がある。ごみの分別ができて資源化が進めば、ごみの量は減っていくと思う。分別に関する取り組みについて自治会では何か行っていることはあるか。

●星加副会長（新居浜市連合自治会）

私の自治会では、資源ごみは新聞、雑誌、ダンボール、アルミ缶などの回収をしている。資源ごみの回収を行うことによって不法投棄は減っていると感じている。最初はとっつきにくいと思うが、資源回収の取組を広げていくことができればよいと思う。

○前田教授

自治会で集めて資源として活用するといったことはすでに行っているということでしょうか。私は松前町民であるが、エミフル松前では資源ごみを持って行けば1kgあたり1ポイントに換算し、500ポイントまで貯まれば500円の商品券に換えてもらうことができる。エミフルでは業者とエミフルが組んでそのような取り組みを行っているが、そのような仕組みがあれば資源ごみを持って行くモチベーションも上がると思う。

●永易議員

私の自治会では青年団を中心に2か月に1回、資源ごみの集団回収をしている。集めた量によって奨励金が市から支払われる仕組みがある。そのお金は青年団や子供たちの活動に活用している。どの程度の団体が活用しているかは分からないが、多くの自治会が利用しているのではないかと。

○前田教授

そういったことに取り組む自治会が増えればよいと思う。そのようなことを行っている自治会で困っていることや改善してほしい点などはあるか。

●星加副会長（新居浜市連合自治会）

新聞や雑誌などは雨に濡れてはいけなため、簡易的な倉庫を作っている。その倉庫がいっぱいになれば軽トラ1台分ぐらいの量になるため、そのたびに持って行くようにしているが、今のところスムーズにできている。

○前田教授

有料化前から取り組んでいる自治会もあると思うが、有料化により何か変化はあったのか。

●星加副会長（新居浜市連合自治会）

船木校区では月に1回、ごみステーションの不法投棄ごみを回収するようにしているが、有料化により不法投棄が増えるのではないかと心配していた。有料化から2か月経った時点では特に変化はないように感じる。このため、有料化による不法投棄の心配はしなくてよいのではと思うようになってきたが、もう少し様子を見る必要はあると思う。

○前田教授

うまく資源化されることによりごみの減量につながることを目指していると思うが、もっと資源化を促進するアイデアなどはないか。

●黒田議員

先日、愛知県蒲郡市で視察を行った。蒲郡市ではサーキュラーエコノミーと言われる循環型経済をまちづくりに取り入れる取り組みを行っていた。サーキュラーエコノミーの特徴の一つとしては、現在のリユース、リデュース、リサイクルの概念に加えて、生産の段階から廃棄物を出さないという考えがある。初めの段階から考えて使用することで市民のごみ減量に対する意識が高まると思う。循環型経済、ごみを出さないという考え方により、より資源化が進むと思う。

○前田教授

物を作る段階からうまく資源化できるようなものづくりをしているという考え方かと思う。新居浜といえばものづくりの町というイメージがあるが、そういったことを提案できるとよいと思う。

●藤原副会長（新居浜市連合自治会）

各種団体ではすでに廃品回収などは行っていると思う。しかし市全体のごみは減っていないということは、このままではごみの減量はできないと思う。持ち込みごみについては、市民一人当たりでは年に1回持って行く程度だと思うので、有料化の影響はそれほどないと思う。燃やしているごみの中にある資源をどのようにして回収するかということを考えないといけないと思う。燃やすごみの中に少し洗えばプラスチックごみとして回収できるものが入っていることが多々ある。一つの袋に入れてしまうと燃やすごみになってしまうため、意識して分別するというのをみんなにどのように

して理解してもらるか、浸透させていくかがごみを減らす上で重要であると思う。

○前田教授

家庭から出るごみについて意識をもって分別することができればよいと思うが、どのようにすればできるのか。

●永易議員

先ほど藤原副会長が言われたことと同時に、情報の見える化も重要と思う。回収した量に応じてどのくらいの金額になったのかと数値で見えるようなことができないかということを中心に行政にも提案していきたい。

○前田教授

量としてのお金が見える化することができればよいと思うが、それをどのようにして市民に伝えるのか、HPという手段もあるが、HPを見ることができない人もいるため、そういった人も含めてどのように情報を出していけば伝わるのか、市民がひと手間かけて分別しようと思うのか。阿部さんはごみを出す立場として、こういったことがあればいいといったことはあるか。

●阿部女性部部長（新居浜市連合自治会）

話のレベルが高くて遠慮をしていたが、私の家の近くにごみを捨てる場所があり、自治会の役割もあるため気にするようにしている。私の自治会では自治会員以外にもごみの分別表などを配布しているが、きちんと分別できているか疑問なものもある。また、道路沿いにあるため、自治会外から車で持ってきて捨てていく人もおり、そ

うった人のごみには全く分別できていないものが多いと感じる。分別できていないごみを注意したところ、トラブルになったという話も耳にすることがある。資源化も大事であるが、まずは各家庭から排出されるごみの分別がきちんとできるようになることが重要と思う。

○前田教授

ごみに対する意識をどのように育てるのかということ、ひと手間かけるというモチベーションをどのように高めるのかということを考えないとなかなか難しいと思う。

●河内議員

幼少期からの分別、ごみ減量の意識教育が重要と思う。市政だよりにて垣生小学校では余った給食をたい肥化するダンボールコンポストの取組を紹介していた。そのような取組を市内の全小学校に展開できれば、ごみ減量の意識づけができると思う。ただ、ダンボールコンポストの講師育成が必要である。また、他市ではあるが小学校4年生時にごみ減量についての授業があると聞いた。子育て支援センターと協力して親子講座や夏休みを利用してごみ減量の大切さを訴える取組をしているとのことである。その取組により3、4歳の子供たちが母親にごみをどの種類に分別すればよいか聞くようになつたと聞いた。親の取組により子供の意識も変わっていくと感じた。

○前田教授

地道な活動をしているという話はあるが、なかなか大きなうねりにはなっていない。

ごみの分別の仕方やごみの出し方について細かく伝えるようなことをしなければ、分別しなさいと言われてもなかなか理解できずに捨ててしまうこともあると思う。そのような人に気づいてもらうような取組をしていく必要があると思う。

●田窪議員

清掃センターに持って行くごみを減らさなければごみの量は数値的には落ちない。星加副会長が言われたように、自治会で新聞や雑誌、鉄くずなどを回収し、回収業者に引き取ってもらえば清掃センターのごみにはカウントされないため、ごみ減量したこととなる。長さ 150cm 以下、直径 25cm 以下であればお金を払えば清掃センターで処分できるが、10月22日から住共クリエイトサービスセンターで剪定くずを無料で引き取ってもらえるようになった。そのようなことを市民が知っているかどうか。また、高齢者や免許返納者など清掃センターに直接搬入できない人への対応についても考える必要があると思う。

○前田教授

無料で引き受けてくれるところがあれば、そこに持って行けば資源化されることになると思う。持っていけない人への対応はどのようにしているのか。

●永易議員

市では大型ごみは電話受付で回収を行っている。地域としては、私の自治会では東雲の陸上競技場に廃品回収の場を設けているが、そこまで持ってくるできない人

については、家の前に置いておけば、集団回収の時に回収するようにしている。



○前田教授

基本的には市に電話申し込みする必要があるが、地域によってはそのような対応も可能ということか。

●永易議員

現状では車がない人が持って行く場合は、電話で個別収集を申し込むしか方法はないと思う。

○前田教授

車がない人でも一応収集してもらう方法があるということでしょうか。

●伊藤議員

市としては福祉的に障害者手帳を持っている人などについては電話をしてもらって業者が回収するサービスはある。ただ、免許を返納した人などについては、現状ではそのサービスは利用できない。

○前田教授

そのあたりのケアも今後考えていかなければならないと思う。

●田窪議員

免許返納した人、車を持たない人などが増えてきて、ごみを自分で搬入できない人

が増えた場合に、そういったことをフォローする施策を考えなければならない。それが原因で不法投棄につながってしまうと有料化の意味がなくなってしまう。

○前田教授

一人一人にきめ細かく対応できる仕組みを作ることは、これからのことを考えると必要と思う。

●坂上会長（新居浜市連合自治会）

独居老人が増えてきている。ごみの問題でも出せる人と出せない人がいると思うので、自治会としても独居老人などの状況を把握しておくことも必要だと思う。

●阿部女性部部長（新居浜市連合自治会）

自治会内では高齢化が進んでおり、回覧板を隣の家に持っていけない人が増えてきている。私の自治会の組には8軒の家があるが4件の人は隣の人に持って行くことができない状況である。このため、組長は2件の家が交代で行っている。お知らせをするだけでも大変な、切迫した状況であることを市の人も知っておいてほしい。

○前田教授

やろうとしてもできない人もいる。そのような人の対応も必要である。会場に来ている市民の人にもごみの件について意見をいただきたい。

●会場（男性）

ごみの収集や分別についてはかなり語りつくされていると思う。問題は分別したものをどう生かすかということだと思う。2点ほど提案したい。一つは金属について、住

友金属鉱山と協力して収集したものをアルミや鉄として利用するようなことができないか。もう一つは、新居浜市で集めた古紙を毎月工場に送るので、再生紙にして新居浜に送り返してもらうようなことはできないか。私は川之江高校で勤めていたことがあり、インターンで生徒を製紙工場に連れて行ったことがある。生徒が工場の人から聞いた話によると、古紙100%の再生紙をつくることも可能とのこと。技術を持った工場はあるので、回収した資源を送り、再生したものを返してもらうといった物々交換のようなことができればと思う。

○前田教授

分別したごみをどう生かしていくのかといった活用についての質問があったが。

●太田理事長（あかがね環境事業協同組合）

段ボールなど古紙類は収集後、清掃センターには搬入していない。市内にも3、4社ほど古紙リサイクル業者があり、そこに搬入している。金属についても鉄くずの買取業者が船木や本郷にもある。我々は業務として毎日ごみを見ているが、新居浜市では可燃ごみの話題がよく上がるものの、一番問題であるのは不燃ごみだと思う。大型ごみや破碎ごみが一番リサイクルできるものとできないものの差が大きいと感じる。皆さん、ごみそのものの定義を理解できているか、一般廃棄物と産業廃棄物の違いなどが分かるのか。おそらく多くの人是一緒くたになっていると思う。燃やすごみは誰が見ても分かると思うが、燃やせないごみに

は清掃センターに持って行っても受け付けてもらえないごみもある。テレビや冷蔵庫などはリサイクル券を買って専門業者に引き取ってもらう必要がある。こういったごみの定義自体を市民に分かってもらわないといけない。まず、市の人が市民に分かりやすくごみの定義を周知した上で、資源ごみなどの分別の方法を学んでいくことが必要だと思う。古紙や缶が資源ごみだということは誰でもわかると思う。しかし、実際分別できていないごみはたくさんある。公民館などでの講習や、分別表をもっと簡潔で分かりやすいものに変更するなどをしていかなければ、有料化をしてもごみの減量は難しいと思う。市と議会と自治会がタイアップしてやっていくことができればよいのではないか。



○前田教授

ありがとうございます。時間をオーバーしているが、あと2人ほど挙手していた人がいるので、順番に意見を伺いたい。

●会場（男性）

人口が減っているのになぜごみは増えているのか。現代人からすると便利さを追求しているため、以前はなかったごみができ

てしまう。以前は急須にお茶の葉を入れてお茶を入れていたが、ティーバッグや、ペットボトルでお茶を飲むようになった。便利にはなったがごみが出るようになった。また、100円ショップには質を問わなければいろいろな物がある。モラルの話にはなってくるが、以前は大切にものを使っていたが、100円ショップに行けばすぐ買えるので、少し使えば捨てて、新たに買うこともあると思う。私も経験があるが、パソコンでデータを紙に打ち出した後、誤字に気づくことがある。事前に確認していれば2回印刷する必要もないが、現代人は時間や合理性に追われてしまい、ごみが増えてしまっていると思う。ごみを出す、出さないといった面では合理性を追求するのか、物を大切にすることかといったことも論じてもらえればと思う。

○前田教授

暮らしの仕方、どういう選択をしていくかということもあると思う。

●会場（男性）

いくつか感じたことを話したい。持ち込みごみの減量化をするために有料化したということを知った。まず、市民への周知といった点で、私は20歳そこそこであるため、社会のことはまだよく分かっていないが、ごみステーションはどこにもあると思う。自治会などで変更点があればA3の大きさなどのお知らせを作り、ラミネートしたものをごみステーションに貼っておけば、そこに出す人の目につき、改善でき

るのではないと思う。サーキュラーエコノミーの話もあったが、いきなりするのはハードルが高いと感じた。新居浜はものづくりのまちではあるが、一般市民が日々消費するものを生産している業者はあまり多くないと思う。生産段階のことについて、数少ない業者にそういったことを話すのではなく、まずは、市民が買い物をするとき、こういうものを買えばリサイクルしやすい、資源にしやすいといったことを提案するなど、まずは消費者が買うところの話をするべきではないかと感じた。情報の見える化といった点で、こういった会を定期的を開催するのは難しいかもしれないが、公民館などに行けば情報がいろいろあり、公民館であればごみ分別大辞典などを活用し、自治会が講師として教育できるのではないかと思った。小学生の時の社会科でごみ処分場の見学をしたが、そういったことも忘れていた。中学校の時などにも重ねて教育し、自宅で親と習ったことの話ができれば、ごみの意識も変わってくるのではないか。そういったことを重ねることでごみの減量は図れるのではないかと思った。

まとめ

○前田教授

周知の問題、物の買い方、学びの場をしっかりと作っていくといったことが大事であるとの話であった。そろそろまとめに入っていきたい。ごみの問題はかなり複雑であり、特効薬としてこうやればよいといったことはなかなかなく、地道に活動していく

しかないのかなと思う。一つはごみに対する概念、ごみとは何なのかといったことをみんなで考えられるような機会を増やしていくことが大事だと思った。そういったことや分別を含めて伝える仕組み、ごみのことについて自治会や地域、企業の人などに伝えていけるような人の育成をしていかなければならないと思う。伝えることはすごく大事であるため、そこを含めてしていけるといいかなと思った。あとは生活そのものをどう見直していくのか、これからの時代を考えた時にSDGsのようなことを達成するために、自分はどのように関わっていかなければならないかということについて、生活そのものをどういうふう提案していくのかということのも大事だと思った。いろんな選択肢がある中で、人によって最適なものは変わってくると思うが、正解がない中で正解を求めていかなければならない部分が多いと思う。誰かにしてもらおうというのではなく、みんなで話し合って知恵を出し合いながら、ごみのことを解決していく仕組みを作っていくことが重要と感じた。まだ有料化から2か月程度しか経っていないため、今回の施策の効果を考えていくとすれば、検証を続けていきながら、いろんな議論、意見交換ができればいいと思う。ここで意見交換を終わりたいと思う。



■閉会挨拶 市議会副議長 高塚 広義

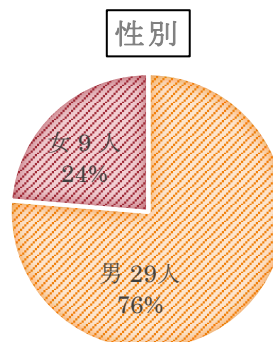
2 (1) 来場者アンケート調査 (11月24日)

■来場者にアンケート調査を実施し、38人(回収率57.0%)から回答を得た。

①性別

性別は男性が29人(76.3%)

女性が9人(23.7%)となっている。



②年齢

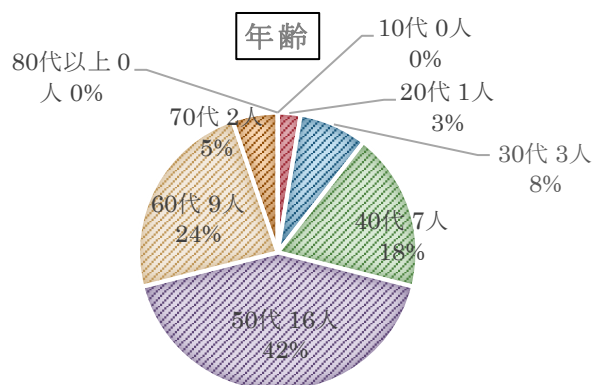
年齢は10代が0人(0.0%)

20代が1人(2.6%)、30代が3人(7.9%)

40代が7人(18.4%)、50代が16人(42.1%)

60代が9人(23.7%)、70代が2人(5.3%)

80代以上が0人(0.0%)となっている。



③お住まい

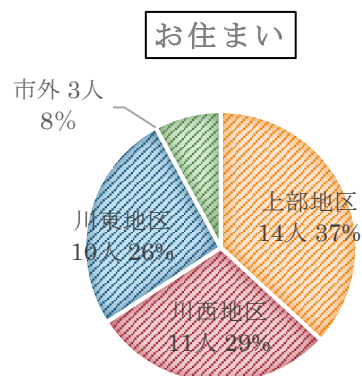
住まいは上部地区が14人(36.8%)

川西地区が11人(28.9%)、

川東地区が10人(26.3%)、

市外が3人(7.9%)

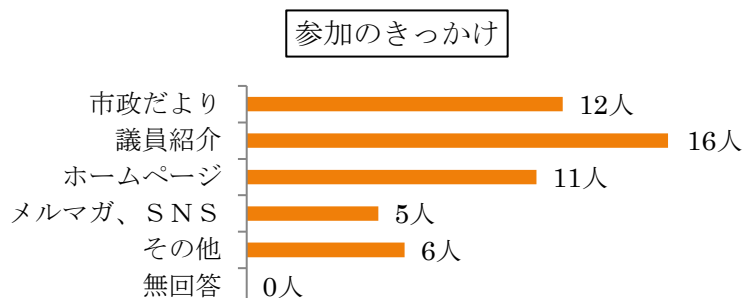
となっている。



④参加のきっかけ(複数回答)

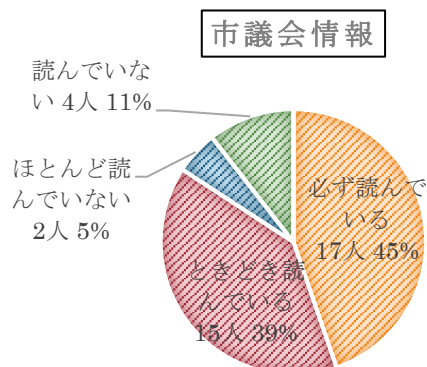
市政だより12人、議員紹介16人、

ホームページ11人が多数を占めている。



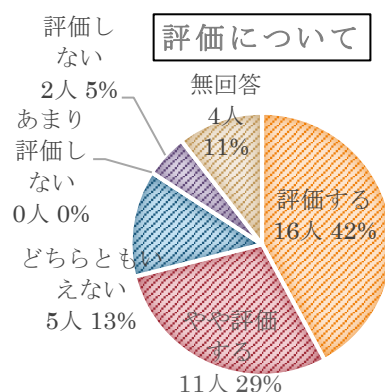
⑤市議会情報

市議会だよりの情報については、必ず読んでいる 17 人 (44.7%)、ときどき読んでいる 15 人 (39.5%)、ほとんど読んでいない 2 人 (5.3%)、読んでいない 4 人 (10.5%) となっている。



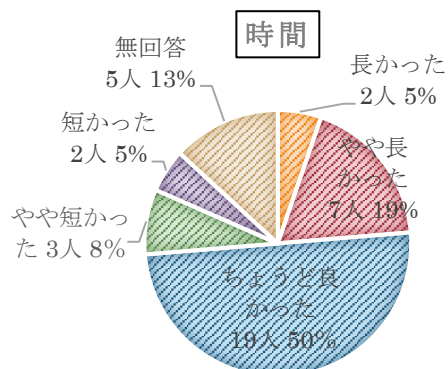
⑥評価について

フォーラム開催の評価については、評価する 16 人 (42.1%) やや評価する 11 人 (28.9%) を合わせて、7 割以上の参加者が評価していると回答した。



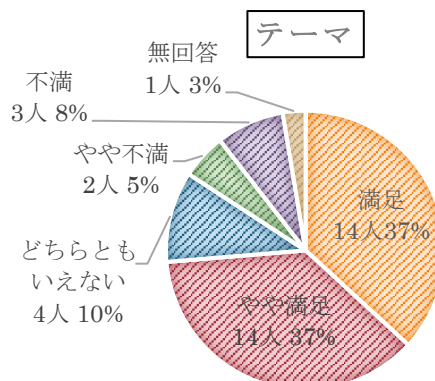
⑦時間について

開催時間については、ちょうど良かったが 19 人 (50.0%)、ついで、やや良かったが 7 人 (18.4%) となっている。



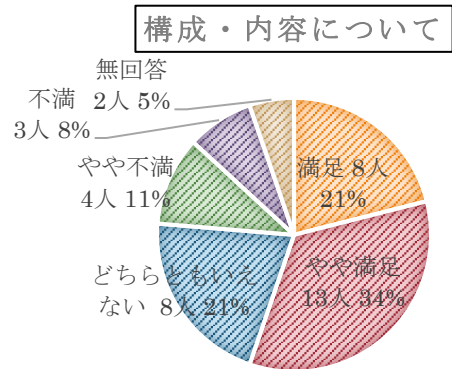
⑧テーマについて

テーマについては、満足 14 人 (36.8%) やや満足 14 人 (36.8%) を合わせて、7 割以上の参加者が満足と回答した。



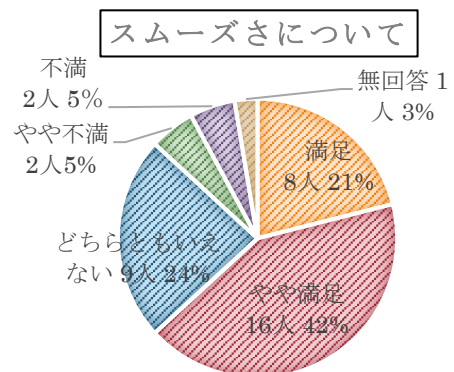
⑨構成・内容について

構成・内容については、満足 8 人 (21.1%) やや満足 13 人 (34.2%) を合わせて 5 割以上の参加者が満足と回答し、ついで、どちらとも言えないが 8 人 (21.1%) となった。



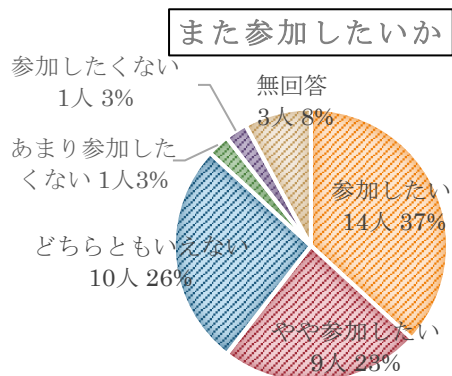
⑩スムーズさについて

会のスムーズさについては、満足 8 人 (21.1%) やや満足 16 人 (42.1%) を合わせて 6 割以上の参加者が満足と回答した。



⑪また参加したいかについて

フォーラムにまた参加したいかについては、参加したい 14 人 (36.8%) やや参加したい 9 人 (23.7%) と合わせて 6 割以上の参加者が参加したいと回答した。



⑫自由意見

- 高校生さん達のまっすぐな質問に丁寧に優しく議員さん達が答えられていて、すごく見てて楽しかったし、気持ちよかったです。(40代 女性)
- 若者の声が聞けて大変良かった・越智さんの言ってる事よくわかった。後半戦の高校生の質問が良かった。(60代 女性)
- 高校生との対面での議論の場、とても貴重だと思ったが、市議の方からの一方的なお願いばかりでなかなか距離を縮めることは難しいと感じた。もう少し歩み寄る姿勢が見たかった。第2

部に関しては、壇上に座って意見する方をもっと招待して、もっと色々な立場の方が議論する時間が欲しかった。(30代 女性)

○高校生との意見交換は、開始前にアイスブレイクがあると、より充実した議論ができると思った。皆さん緊張していたようなので。後半のような議論をもっと聞きたかった。(30代 女性)

○コロナ禍でもあるため希望者に対して Zoom 等の Web 会議形式を取り入れてみたらどうか。(50代 男性)

○高校生は、西高、東高、高専生も入れては。市民あがての意識の高揚を共に考えていければと思う。(60代 男性)

○重要インフラの主体は「公」が行うべきだと思う。(50代 男性)

○参観者が少なくして少し残念だった。50人～100人程度が参観するようなフォーラムを目指していただきたい。(60代 男性)

○発言の都度マイクを拭いて消毒するのが気になるので、人数分のマイクを用意するか据え置き型のテーブルマイクを使えば良いのでは。(50代 男性)

○市職員の参加が多すぎる。一般市民の参加を望む。(70代 男性)

○議会、議員さんの意見や考えをもっと示していただきたい。(60代 男性)

○マイクは一人一本準備してください。毎回拭くのは見苦しい。本気でやる気であれば見える化をしてください。意見の見える化、それに対する市側の対応が見える化することで、どれだけの意見に対してどう対処しているか、しようとしているか、それが見える化してください。(60代 男性)

○投票率アップのためには魅力ある候補、公約が一番。イオンへの投票所は不要。(50代 男性)

○もう少し早い時間の方が高校生も参加しやすいのではないかと感じました。この度はお世話になりました。(30代 男性)

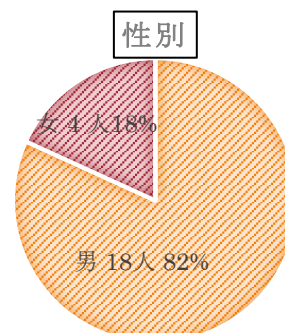
2 (2) 来場者アンケート調査 (11月25日)

■来場者にアンケート調査を実施し、22人(回収率43.0%)から回答を得た。

①性別

性別は男性が18人(81.8%)

女性が4人(18.2%)となっている。



②年齢

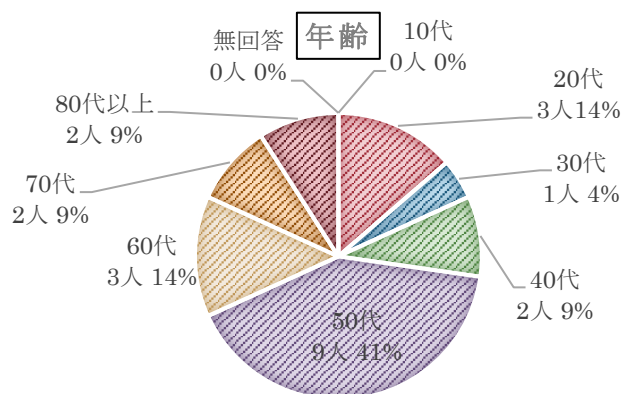
年齢は10代が0人(0.0%)

20代が3人(13.6%)、30代が1人(4.5%)

40代が2人(9.1%)、50代が9人(40.9%)

60代が3人(13.6%)、70代が2人(9.1%)

80代以上が2人(9.1%)となっている。

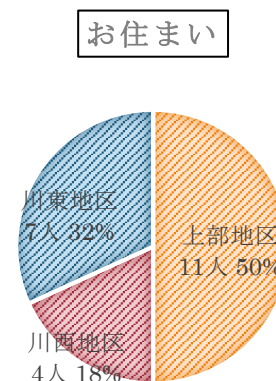


③お住まい

住まいは上部地区が11人(50.0%)

川西地区が4人(18.2%)

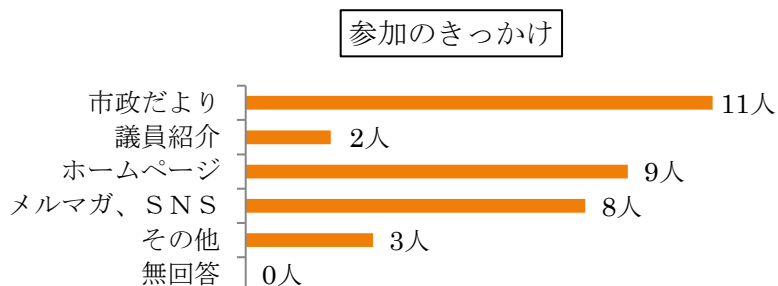
川東地区が7人(31.8%)となっている。



④参加のきっかけ(複数回答)

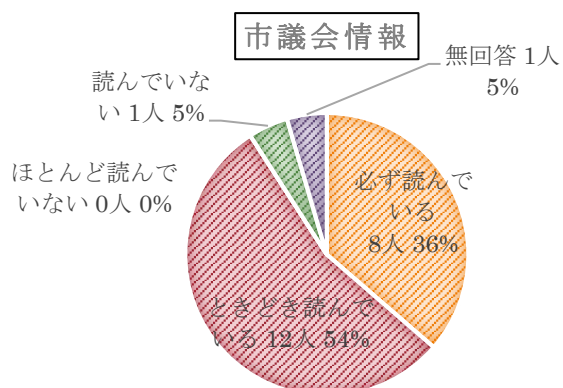
市政だより11人、ホームページ9人

メルマガ・SNS8人が多数を占めている。



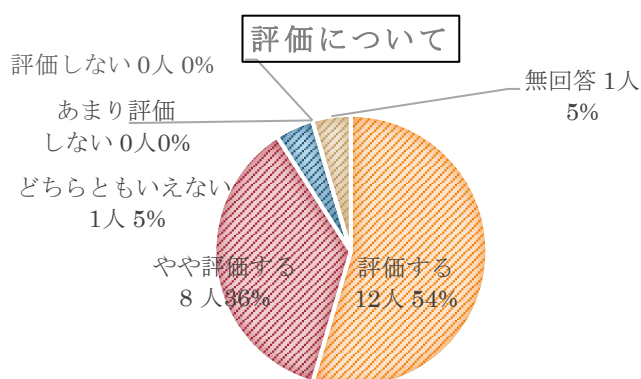
⑤市議会情報

市議会だよりの情報については、
必ず読んでいる 8 人 (36.4%)
ときどき読んでいる 12 人 (54.5%)
読んでいない 1 人 (4.5%)
となっている。



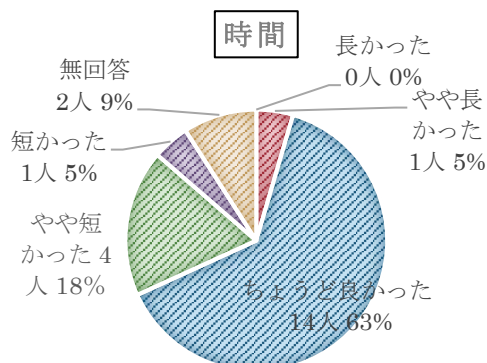
⑥評価について

フォーラム開催の評価については、
評価する 12 人 (54.5%)
やや評価する 8 人 (36.4%) を合わせて、
9 割以上の参加者が評価していると回答
した。



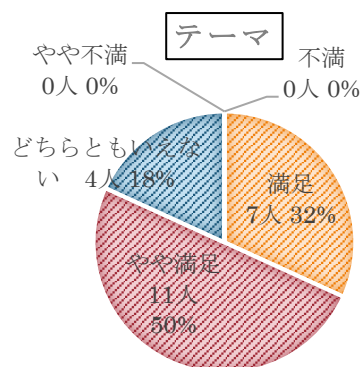
⑦時間について

開催時間については、ちょうど良かったが
14 人 (63.6%) と、6 割以上の参加者が
ちょうど良いと回答した。



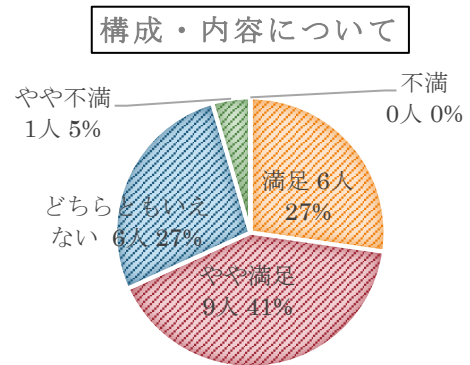
⑧テーマについて

テーマについては、満足 7 人 (31.8%)
やや満足 11 人 (50.0%) を合わせて、
8 割以上の参加者が満足と回答した。



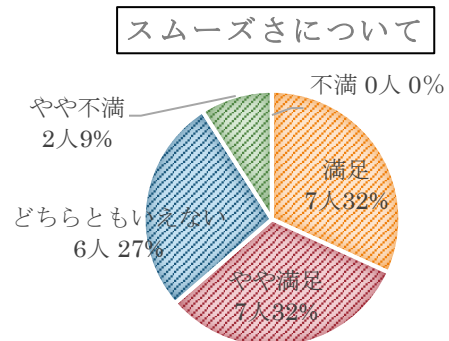
⑨構成・内容について

構成・内容については、満足 6 人 (27.3%)
やや満足 9 人 (40.9%) を合わせて
7 割近くの参加者が満足と回答した。



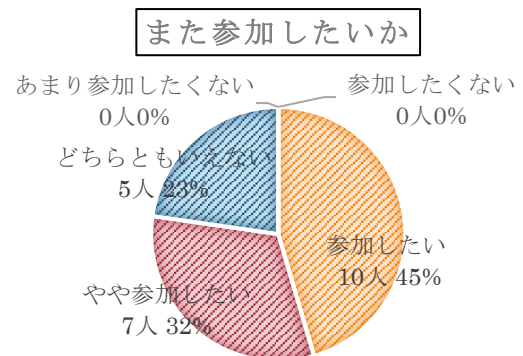
⑩スムーズさについて

会のスムーズさについては、
満足 7 人 (31.8%) やや満足 7 人 31.8%)
を合わせて 6 割以上の参加者が満足と回答した。



⑪また参加したいかについて

フォーラムにまた参加したいかについては、
参加したい 10 人 (45.5%)
やや参加したい 7 人 (31.8%) と合わせて
8 割近くの参加者が参加したいと回答した。



⑫自由意見

- 定期的に開催してほしい。何か問題が出てきた際は臨時もしていただいていたいいと思う。本日は貴重な意見等ありがとうございました。(30代 女性)
- カフェスタイルで市民と議員さんがリラックスして話ができるような会とかどうでしょう。(40代 女性)
- 会場の行政担当に説明を求めようとするのはいかがなものかと思う。議員と市民との意見交換ではないでしょうか。(40代 女性)
- 私は今回初めてです。7年目とは驚きです。前から知っていれば早くから参加できたと思

残念です。(80代 男性)

○リモート形式でも見れるとよいのでは。(20代 男性)

○可燃ごみを燃やして発電・廃熱利用のコージェネレーションシステムを構築したらいいと思う。(50代 男性)

○ゴミ減量の啓発。26名の市議の先生が、先生方の後援会で啓発を図りそれを末端へ降ろすともっと啓発に力が入るのでは。(60代 男性)

○一般市民の参加が少ないと感じた。(60代 男性)

○課題についてもう少し焦点を絞ったら。(70代 男性)

○ごみの有料化になって、野山への不法投棄が今までよりも増加するのではないかと心配している。(80代以上 男性)

○新居浜の街としての将来ビジョンをテーマに欲しい。(70代 男性)

3 資料 (会場スクリーン)

■ 11月24日 (木)

第1部 企画教育委員会

テーマ: 選挙権年齢の引下げと投票率アップへの取組について

市民との意見交換会

選挙権年齢の引下げと投票率アップへの取組について

2022/11/24 (木) 19:00-21:00
新居浜市議会市民との意見交換会 議会フォーラム2022
@あかがねミュージアム

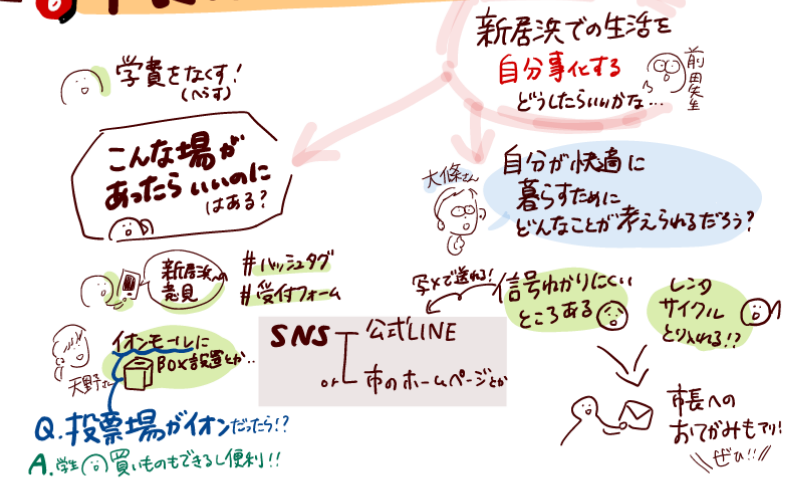
1/2

新居浜南高等学校、新居浜工業高等学校学校

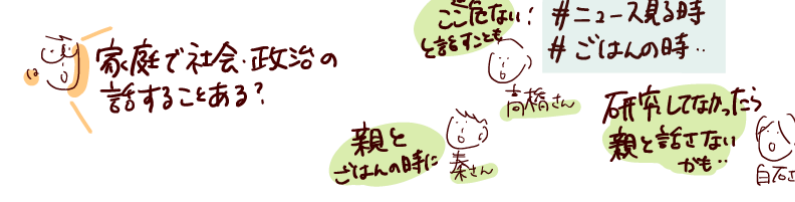


グラフィック by いわこ

6 市長になるなら!?



7 会場から



8 議員のみなさんに質問!



お話しできる場 #関心のもてる場

市民との意見交換会

公共施設の民間譲渡について考える

2022/11/24 (木) 19:00-21:00 1/2p
 新居浜市議会市民との意見交換会 議会フォーラム2022
 @あかがねミュージアム

銅夢キッチン運営事業者、テナント入居者、納入事業者、一般消費者

営利企業への市有財産etc貸与は初。
 ↓
 良いアイデア(材料)をききたい

商店街の活性化
 目的ではあったが...
 テナント退職者も...

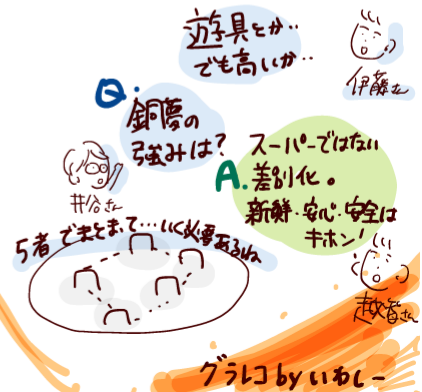
2 市にお願いしたいことある?

まちづくりの
 取組のヒント
 と思っています
 商店街
 新居浜市
 前田

1 今の銅夢キッチンの状況



3 アイデアありませんか?



市民との意見交換会

公共施設の民間譲渡について考える

2022/11/24 (木) 19:00-21:00 2/2p
 新居浜市議会市民との意見交換会 議会フォーラム2022
 @あかがねミュージアム

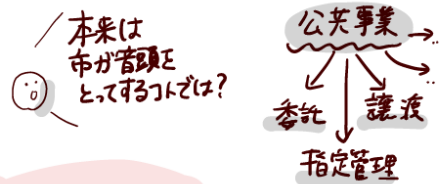
銅夢キッチン運営事業者、テナント入居者、納入事業者、一般消費者

4 行政 ↔ 銅夢キッチン...
 どんな関わり方ができそう?

消費者ニーズの把握
 声を拾っていく大切
 高塚



5 会場からの声



ただ... 今ちんと見たら、
 公益性、分償のしくみ
 を考えてもらうが必要!!
 前田

小売店の影響と考慮は?
 #誰性? #遠い!? #太鼓井
 地区ごとの500人の割合は?
 A. 市内... 6割。まだ分析できてない

譲渡についての議論を
 したい!!
 A. 茨城県境町。例
 人口が少ないが成
 立している。

グラコ by いわし

■ 11月25日 (金)

市民福祉委員会

テーマ：ごみ有料化後の課題と取組について

市民との意見交換会



2022/11/25 (金) 19:00-20:00

新居浜市議会市民との意見交換会 議会フォーラム2022 @あかがねミュージアム

新居浜市連合自治会、あかがね環境事業協同組合

ごみ有料化後の課題と取組について



10月~有料化スタート
ゴミ排出量 全国で比べると... 99!
行政による
どのような施策が必要か?

6102 / 1人 全国
7402 / 1人 新居浜



今日は
"ゴミの減量"がテーマ?
いいかな?

1 ゴミの状況
~ 4月... 10,000台/車 (10月平均)
9月... 18,000台/車
10月~... 2,100台
また増えるか?

3 自治会での取組は?



青年団などで
資源ゴミの
集団回収や2回
資源に!



2

不法投棄について どう対策していく?



周知かな!

市に... 持ち込み
ふ... Tel

収集ゴミの
捨て方etcのPR
考えた方がよさそう

家庭ゴミ
資源ゴミ
...
スリート
運搬 L25



分別する → 資源に

HP見れない人は
合かないかも...
(知らない) 人た5
どうアプロ-チ
していく?

不具合
あるかも?
車でもっていい人ESの
文法は?

回収日有!
家の前に
おくと...
*+環境=3

福祉的な行
これからは...
*+環境=3

回覧板も
まかせない
独居老人 免許返納者

市民との意見交換会



2022/11/25 (金) 19:00-20:00

新居浜市議会市民との意見交換会 議会フォーラム2022 @あかがねミュージアム

新居浜市連合自治会、あかがね環境事業協同組合

ごみ有料化後の課題と取組について

4 有料化による変化はあった?



もうかし様子を
見ないと分からない...

資源化
進めたいわ
前田先生

カーシェアエコミー
市民 事業者
関係団体 自治体

検証を
まとめ
つづけてはまらう!
前田先生
● ゴミの概念
● 伝える人の育成
● 生活の見直し
#SDGs

ゴミ全体を
減らす
認識 意識 が大切
だと思う!
新居浜市民

減った! けど
見える化 → モチベーション
↑
ゴミ削減!



毎日のゴミ
分別は...
少しでも
毎日のゴミ分別
してほしい

こんな活動かも...
ダンボールコンポスト
学校教育

5 会場が

アルミなど 任意と協力
古紙の活用
提供しよう
再生紙を
リサイクル
任意の

燃えないゴミ
の回収
任意の

合理性
便利さ
毎日の生活
み直し
グレート by いわし